

# トキソプラズマ症

## ～妊婦さんは気をつけて～

トキソプラズマ症はトキソプラズマという寄生虫による動物由来感染症で、人類の1/3以上、日本人の10~30%が感染するとされており、公衆衛生上重要な感染症です。

トキソプラズマというのは *Toxoplasma gondii* (トキソプラズマ ゴンディ) という幅3μm<sup>\*</sup>、長さ5-7μmと小さな半円~三日月形の寄生虫(原虫)です(図1)。動物の細胞の中に寄生し、環境中で単独では増殖しません。世界中に広く分布しており、ヒトを含むほぼ全ての哺乳類と鳥類に感染する能力を持っています。

ヒトが感染した場合、免疫の働きにより多くは症状が出ませんが、一度感染したトキソプラズマは体内に生きてそのまま保持されるので、病気で免疫力が著しく低下した場合には脳炎などの後天性トキソプラズマ症を発症することがあります。

特に問題となるのは、妊娠中の女性が初感染した場合です。トキソプラズマが胎盤を通過して胎児に感染する可能性があり、感染した胎児は流産や死産、先天性トキソプラズマ症となることがあります。先天性トキソプラズマ症の症状は、水頭症や脈絡膜炎による視力障害など、主に脳や眼に現れます。産まれた時に症状がなくても、おおよそ思春期頃まで発症のリスクがあるとされています。

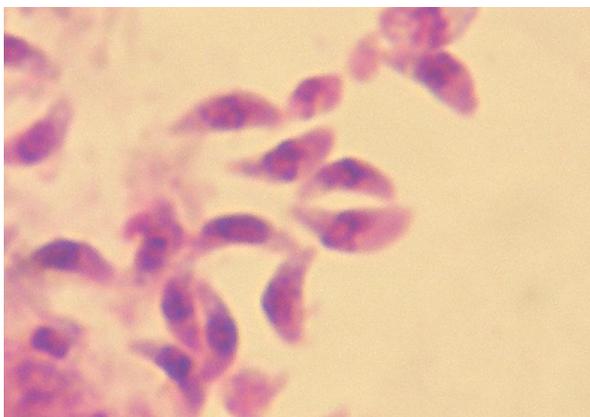


図1 顕微鏡で観察したトキソプラズマ。三日月形をしている。(ギムザ染色)

トキソプラズマは様々な動物に感染しますが、トキソプラズマを環境中に排出することができるのはネコ科の動物です。ネコが初めて感染した時に糞便とともにトキソプラズマを環境中に排泄し、ヒトやその他の動物への感染源となります。ヒトへの感染は、加熱不十分な感染動物の肉を食べたり、トキソプラズマを含んだネコの糞便に汚染された土での畑仕事やガーデニング等によりおこります(図2)。トキソプラズマは目には見えませんので、肉を食べる時や土いじりの際に見分けることはできません。したがって、食肉の生食には常に感染のリスクがあると考え、十分に加熱して食べること、普段から手洗いは十分に行うなど感染の予防を心がけることが重要です(図3)。

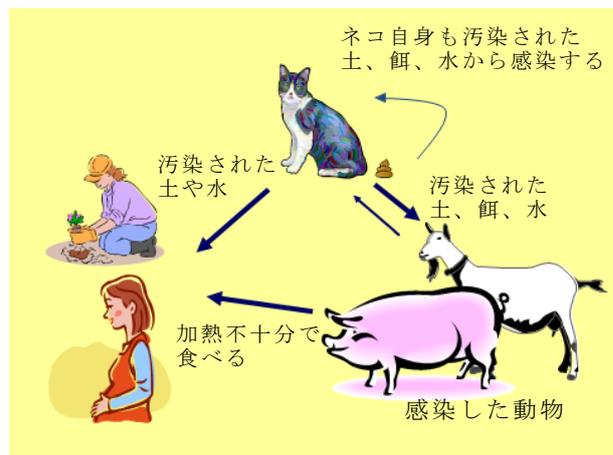


図2 トキソプラズマの生活環

- \* 食肉は十分に加熱して食べる。
- \* ガーデニングや畑仕事の後は手をよく洗う。
- \* 生で食べる野菜や果物はよく洗う。
- \* 井戸水や川の水は飲まない。
- \* ネコのトイレは毎日変える。
- \* 飼いネコに生肉を与えない。
- \* 飼いネコは外に出さない。

図3 予防のポイント

【衛生科学班】

※ 1μm=0.001mm (1mmの1000分の1)